施工説明書

実験用流し

S-105 ワントラップ付実験用流し
S-106 はめ込み形ワントラップ付実験用流し
S-107 角型実験用流し

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。

このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。
●この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
●施工後は必ず正常に作動することをご確認ください。
●お客さまに必ず本書と取扱説明書をお渡しください。

●安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語の説明

注意 …「取扱を誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

記号の説明

⚠ …「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

(指示実行) …「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

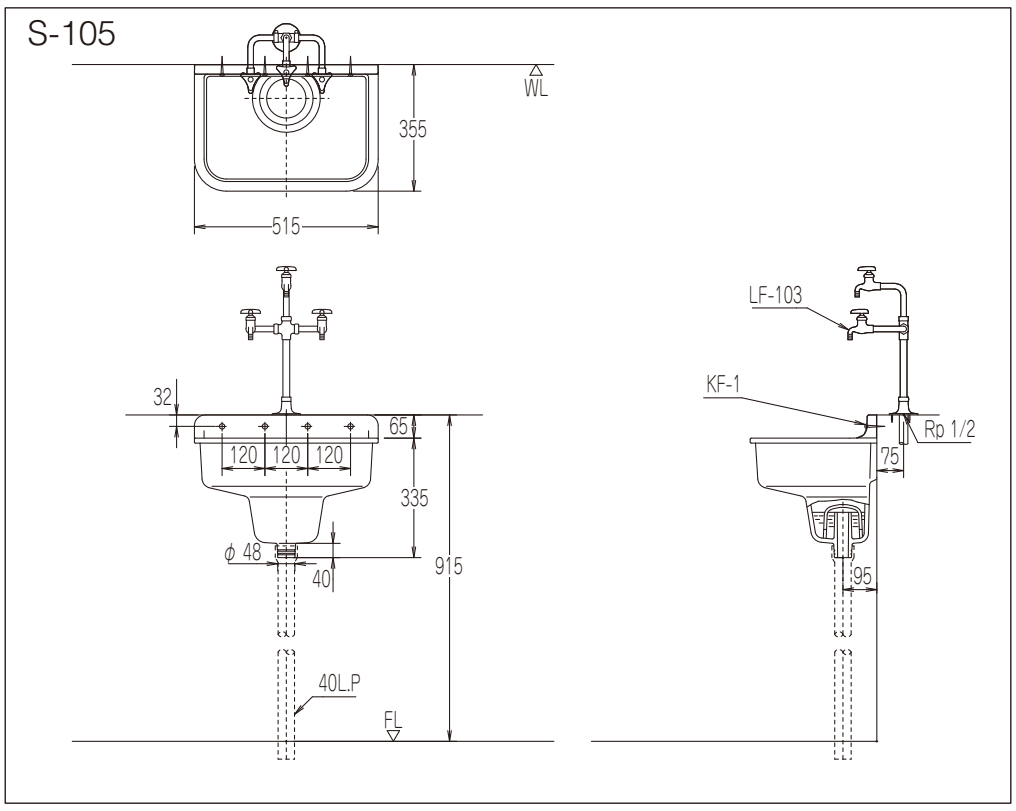
…「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

⚠ 注意

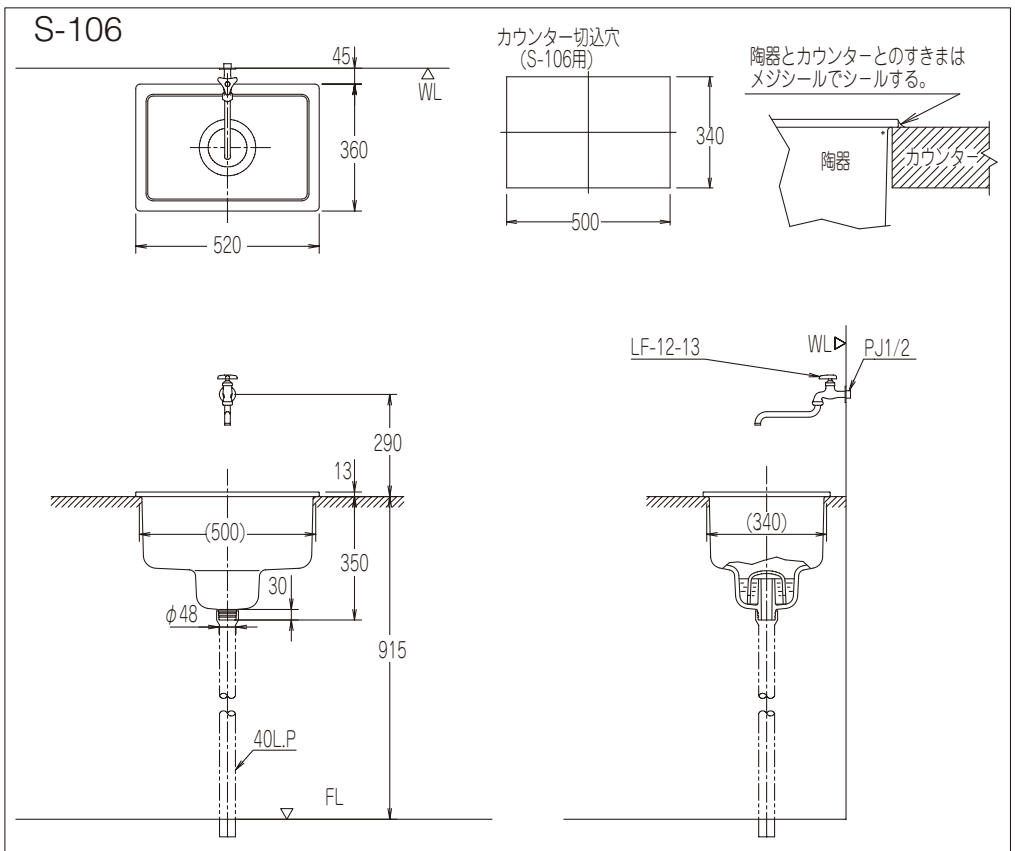
陶器は割れものです。 ●施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。 ●施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。 ※破損部でケガをしたり、漏水により家財等を濡らす恐れがあります。	(指示実行)
陶器に対するねじは締めすぎないようにしてください。 ※陶器が割れてケガをする恐れがあります。	
施工後に漏水検査を必ず行ってください。 ※漏水により家財等を濡らすことがあります。	(指示実行)
陶器に熱湯を注がないでください。 ※陶器が破損してケガをしたり、漏水のため家財等を汚す原因になることがあります。	
陶器に硬いものを落とさないでください。 ※陶器が破損してケガをしたり、水漏れのため家財等を濡らす原因になることがあります。	
陶器にひびが入ったり、割れた場合、破損部を素手で触らないでください。 ※破損部でケガをすることがあります。	
陶器にひびが入ったままで使用しないでください。 ※破損部でケガをすることがあります。	(指示実行)

●施工完了図

S-105

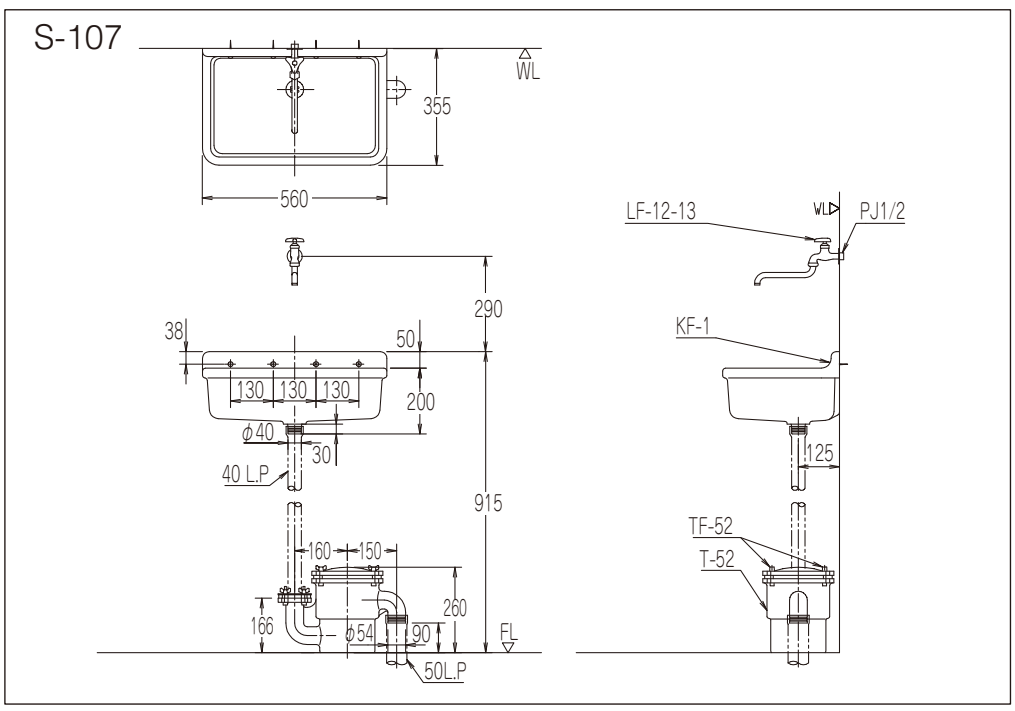


S-106



※（　）内寸法はカウンター寸法です。

S-107

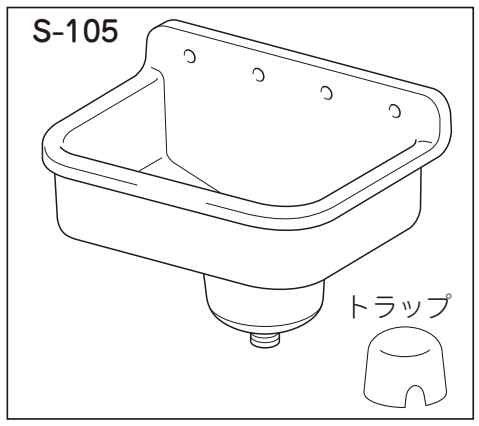


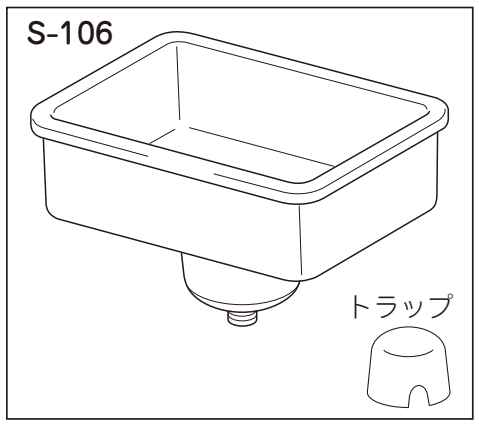
株式会社 LIXIL

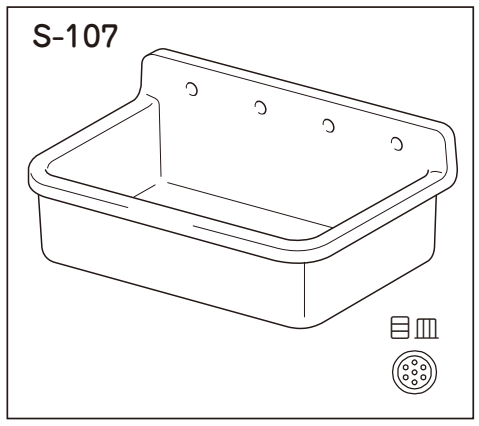
●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センターまで
ナビダイヤル **TEL 0570-017-173**

受付時間　平日　9:00 ～ 18:00
土日・祝日　9:00 ～ 17:00
（ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く）

●部品の確認 排水管は現場調達







	別途手配品
S-105	●水栓金具 ●シーラー（WG-1） ●木ねじ(KF-1、4本) またはAYボルト(AY-44、4本)
S-106	●水栓金具 ●シーラー（WG-1）
S-107	●水栓金具 ●シーラー（WG-1） ●木ねじ(KF-1、4本) またはAYボルト(AY-44、4本) ●T-52

●施工前のご注意

●施工の際には、商品の表面にキズを付けないように十分注意してください。

●重量が15キロ以上ありますので、補強が不十分ですと陶器が傾き、鉢内に水が残ったり、壁の間に隙間が発生する恐れがあります。

●施工方法

1. 給排水の位置決め、取り出し

施工完了図に従って給水管・排水管の取り出しができていることを確認してください。

◆注意点

❗器具取り付け前に給水管・排水管に異物が混入しないようにしてください。

【S-105、S-107共通作業】

【木造壁の場合】

●取付部厚さ角材30mm,合板18mm以上になるように補強木を設けてください。

●補強木は構造体との固定を行ってください。

●木ネジ（KF-1）用の下穴(φ4、深さ60mm)を開けてください。

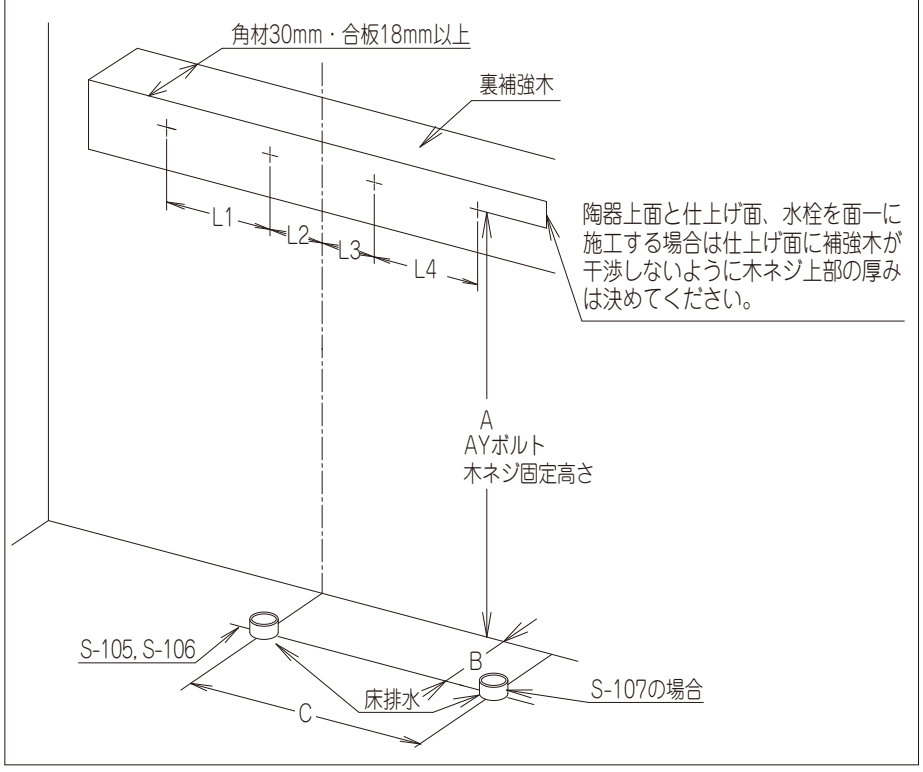
【コンクリート壁の場合】

●取り付け部の奥行きは75mm以上(コンクリート厚40mm以上)を確保してください。

●AYボルト(AY-44)用の下穴(φ11、深さ70mm)を開けてください。

〔施工高さ915mmの場合〕

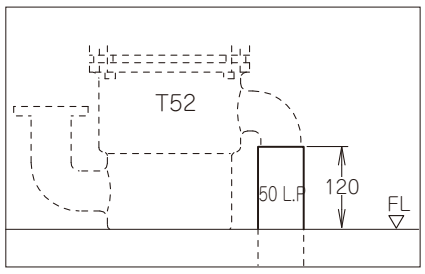
	A寸法	L1寸法	L2寸法	L3寸法	L4寸法	B寸法	C寸法
S-105	883	120	60	60	120	95	―
S-107	877	130	65	65	130	125	310



2. T-52（別途手配）と排水管の接続

【S-107の場合】

1. 施工完了図に従って鉛管(50L.P)を立ち上げてください。
2. 鉛管をF.Lから120mmで切断します。



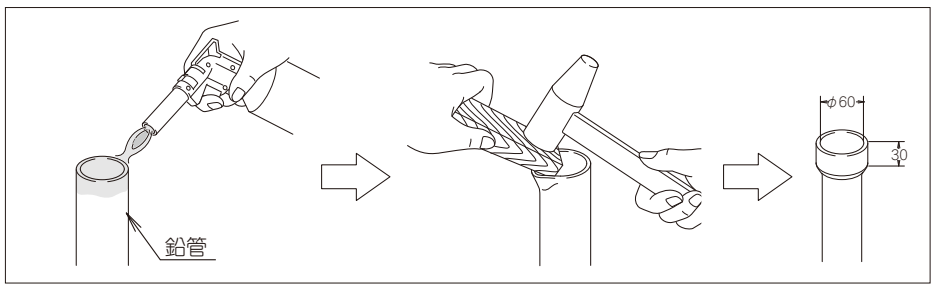
3. 排水鉛管の端を広げてください。

<鉛管を広げる方法>

●トーチランプ（ガスバーナー）で鉛管を加熱します。

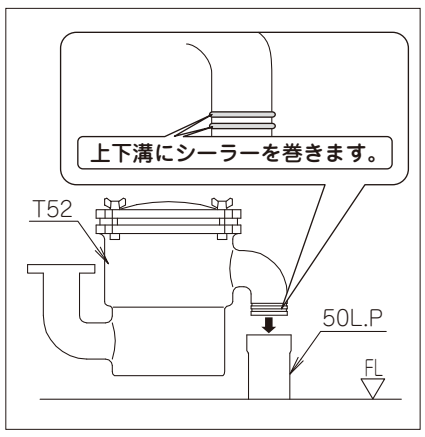
●図のように鉛管を十分に広げます。

（内径60mm、深さ30mmを目安にしてください。）

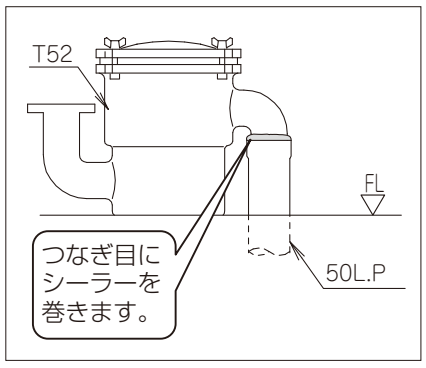


4. T-52の排水部にシーラー（WG-1）を巻き、鉛管を差し込んでください。

※溝が2本とも鉛管内に入るように挿入してください。飲み込みが長すぎたときは鉛管を切断してください。



5. 鉛管の先端とT-52の排水部の段にシーラー（WG-1)を巻きつけて充填してください。

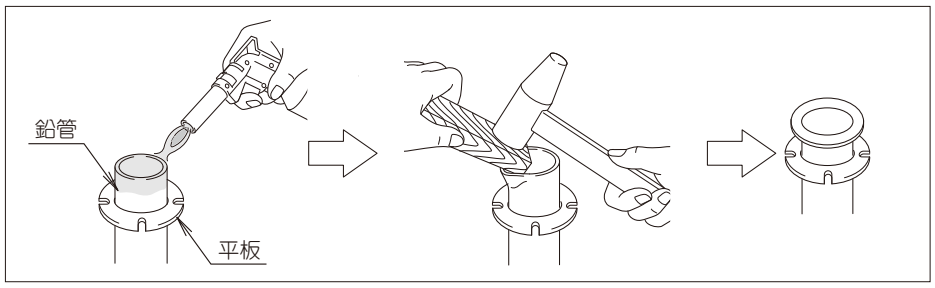


6. 長さ600mm以上の鉛管（40L.P）に平板を通し、鉛管をツバ加工してください。

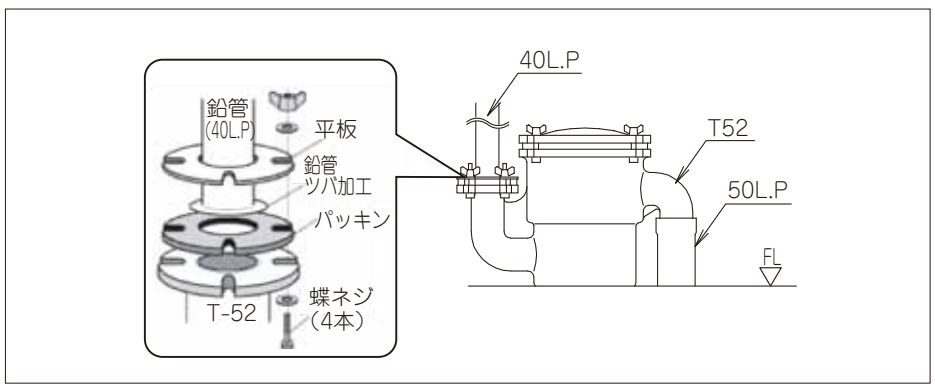
※ツバの外径はφ60mm前後にしてください。

●トーチランプ（ガスバーナー）で鉛管を加熱します。

●図のように鉛管を十分に広げます。



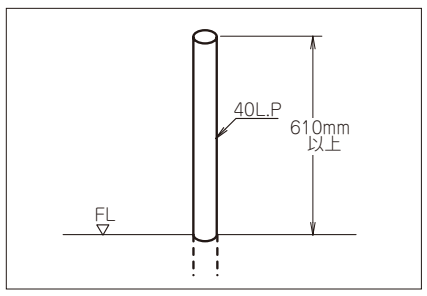
7. T-52のフランジ部と平板の間にパッキンをはさみ4本の蝶ネジで固定してください。



3. 排水管の接続

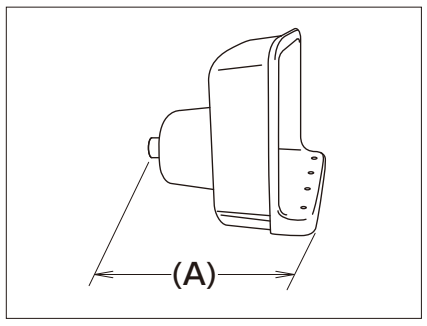
【S-105、S-106、共通作業】

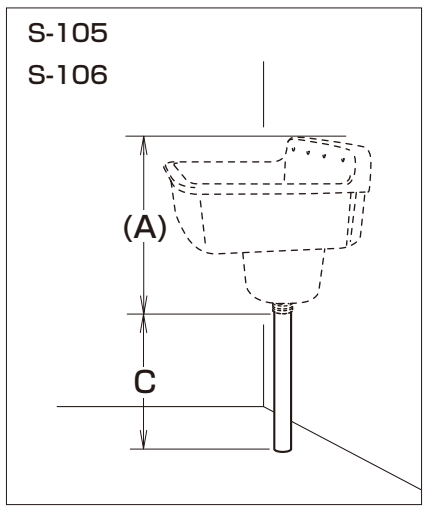
1. 施工完了図に従って鉛管（40L.P）を立ち上げてください。

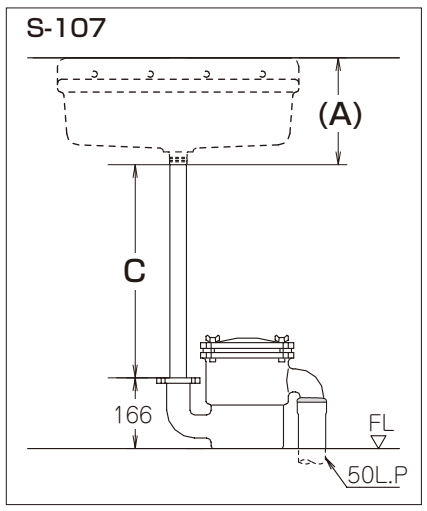


【S-105、S-106、S-107共通作業】

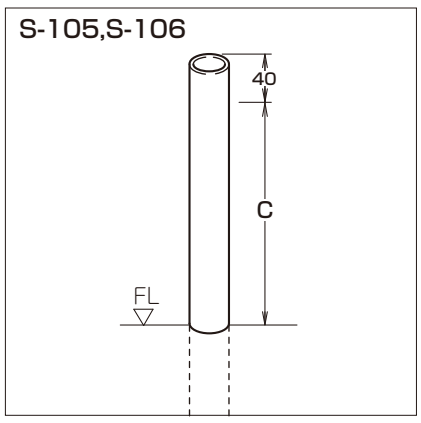
2. 流しの高さ(A)を測り、Cの長さを出してください。

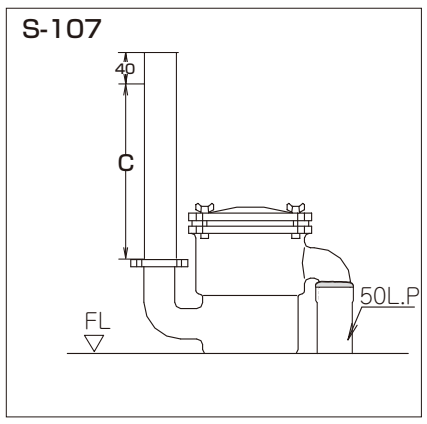






3. 鉛管をCプラス40mmの高さで切断します。

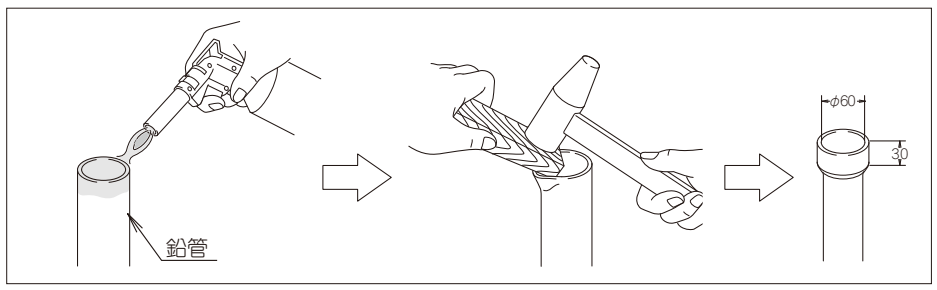




4. 排水鉛管の端を広げてください。

<鉛管を広げる方法>

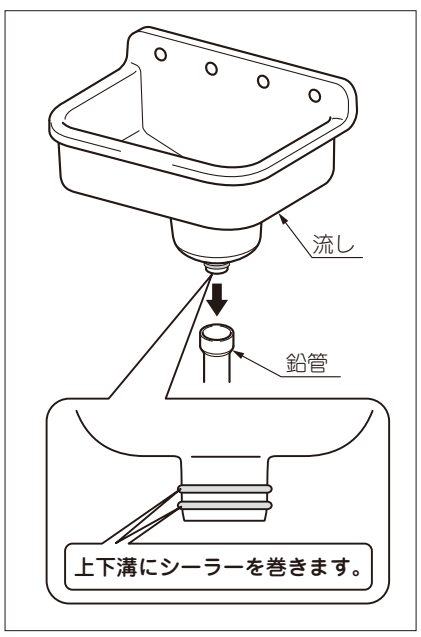
- トーチランプ（ガスバーナー）で鉛管を加熱します。
- 図のように鉛管を十分に広げます。
（内径60mm、深さ30mmを目安にしてください。）



4. 流しの固定

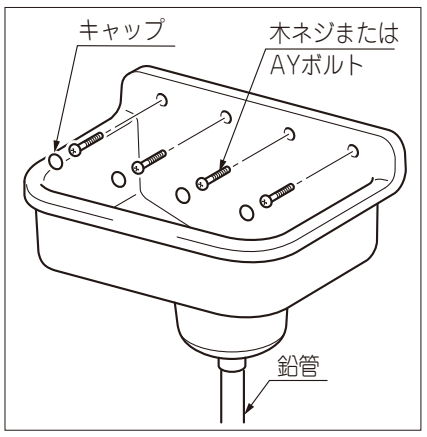
【S-105,S-106,S-107 共通作業】

1. 陶器の排水口先端の溝にシーラーを巻き、端を広げた鉛管に陶器排水口先端を差し込みます。
※鉛管の開口に排水口を差し込みますので入れにくい場合は補助者に確認してもらいながら作業してください。
※溝が2本とも鉛管内に入るように挿入してください。飲み込みが長すぎたときは鉛管を切断してください。



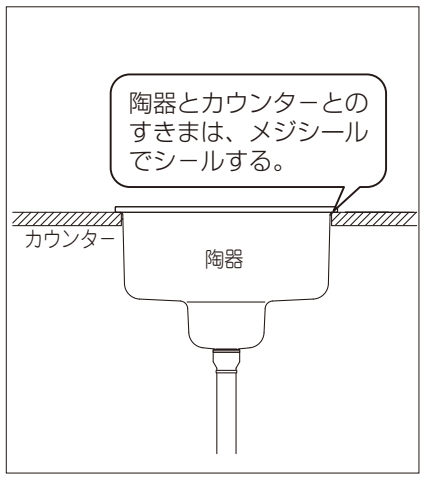
【S-105,S-107 共通作業】

2. 流しを木ネジまたはAYボルトで固定します。



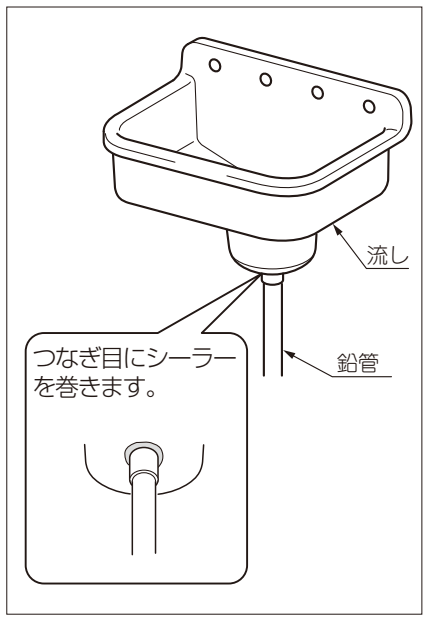
【S-106の場合】

3. カウンター開口に陶器をセットします。
※陶器とカウンターの隙間にメジシールでシールをしてください。



【S-105,S-106,S-107 共通作業】

4. 漏気防止のため鉛管の先端と陶器の段にシーラーを巻きつけてください。



5. 水栓の取り付け

1. 水栓金具の取付けは、水栓金具に同梱された施工説明書をご参照ください。
※施工中、本体を倒さないでください。鉢などが破損してケガをする恐れがあります。

●引渡前の確認

【通水確認】

給排水接続部の水漏れが無いことを確認します。
※数回繰り返して水を流さないと確認が困難な場合があります。